

## 新病院長ご挨拶

松岡 哲也



この度、山下前病院長の理事長就任に伴い、令和2年7月1日付で病院長を拝名いたしました。このコロナ禍での病院長という大役に、身の引き締まる思いです。私は、平成10

年に大阪府立泉州救命救急センターに赴任して、23年が経ちました。この間に、救命救急センター所長、りんくう総合医療センター副病院長兼救急診療部長、患者サポートセンター長等を歴任、兼務して、地域の医療機関との病病連携、病診連携の重要性を痛感してきました。折しも、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックのために、りんくう総合医療センターも、地域の多くの医療機関も多大なるダメージを被っています。このコロナ禍は、まだまだ続きそうです。りんくう総合医療センターは、泉州南部唯一の基幹病院として高度急性期医療を提供してきましたが、それに加えて、未だに収束の気配の見えない COVID-19 に対しても、当地域の中心的な役割を担うことを期待されています。当地域の医療機関の方々と協働して、この難局を乗り越える所存です。そして、りんくう総合医療センターが、患者さん、当地域の医療機関の方々、そして我々りんくう総合医療センターの職員も、皆が納得できる医療を届けられるよう、精励して参りますので、ご支援のほど、宜しくお願ひします。

## 新副病院長ご挨拶

烏野 隆博



この度、副病院長に就任いたしました。診療局次長・診療局長の時代から多くの医局員のまとめ役として理事長・病院長をサポートしてきました。これからは、

これまでと少し目線を変えて病院全体を見ていく必要があると考えています。しかしその一方で、これまで同様に医局員全体の意見を汲み取りながら、このコロナ禍のなか、病院がいい方向に進んでいけるように努力していこうと思っております。副病院長の役割のほか臨床研修センター長と血液内科主任部長も兼任しております。医療を担っていく上で大切な“知”と“感性”を研修医に身につけてもらえらることを目標に魅力あるプログラムや教育システムを構築することに力を入れています。最近では研修医の人氣も高くなり、研修希望の競争率も約5倍と、かなり狭き門となっております。当院血液内科は当地域の数少ない血液疾患を専門に取り扱う医療機関です。さらに、治癒を目指すことのできる造血幹細胞移植においては、大阪府下でも数少ない、骨髄バンクからの造血幹細胞移植が可能な病院にまで成長してきています。血液内科主任部長としては、地域の方々にさらに良質な医療のサービスの提供に努め、この地域で完結できる医療を目指していきます。このように三足の草鞋を履いておりますが、それぞれの草鞋の紐を切ることなく役割を全うしていく所存ですので、宜しくお願ひ申し上げます。

## 新診療局長ご挨拶

種村 匡弘



この度、診療局長に就任いたしました。これまで培われてきた円滑な医局運営と発展的努力を引き継ぎながら、地域医療機関の先生方との密接な連携に寄与できるよう邁進する所存ですので、どうぞご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願ひいたします。当院は388床、33診療科を有する総合医療センターであり、最新の医療施設のもと、高度な専門医療を行える豊富な医療スタッフが在籍しております。また次世代の医療を支える医師を育成すべく、基本的・専門的技術の習得、医療人としての覚悟を形成しながら研修医教育を実践しております。今後も急性期病院として患者様をはじめ、ご紹介いただいた地域の先生方にも満足いただける『良質な医療を提供』できる診療局にまといっていく所存です。

がん診療に関しては大阪府がん診療拠点病院の指定を受けており、緩和ケアの提供を含め当地域のがん診療の先進的中心となるべく院内の各専門職種と連携をとり、チーム医療でがん撲滅を目指してまいります。りんくう総合医療センターがあつて良かったと思つていただける病院になれるよう診療局全体で考えていきたいと思っております。今後とも変わらぬご支援の程どうぞよろしくお願ひ申し上げます。